
ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編

サンコン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編

【コード】

N45860

【作者名】

サンコン

【あらすじ】

昭和58年 雛見沢

いつもとなんら変わらない人々、風景。主人公、前原圭一は何一つ不自由のない生活を送っていた。家族、仲間達と過す日々。しかし、それはいつしか幻想となって消えていく。悲劇は新たな悲劇を呼び、人々に無限の苦痛を与える。

ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編 0

昭和58年 8月下旬 雛見沢村
タツタツタツタツタツ・・・

足音が聞こえる。誰かが走っているようだ。

「ハア、ハア、ハア・・・」

足音に共鳴するように誰かが息切れしているような音が聞こえる。

時は夕暮れ。この時期の夕暮れになるとヒグラシがよく鳴いている。

カナカナカナカナ・・・

2つの音にヒグラシもコーラスを奏でる。

「くそっ・・・」

声を聞くと性別は男のようだ。しかも、まだ若い。

「どうして・・・こんな事にッ・・・」

その言葉を残し、音は消えていった・・・

昭和58年 6月中旬 雛見沢

前原圭一は昭和58年の5月に東京からこの雛見沢に引っ越してきた。

雛見沢は人口2000程の寒村で彼が引っ越してくる前、ダム建設により村が沈みかけた事があった。

彼の家庭はごく一般的で父親と母親の3人で暮らしている。

東京に居た時と同じように朝起き、学校に行つて、家に帰る。

彼にとっては何の変哲もない日常。

変わったといえば周りの風景や人が変わったことか。

「んじゃあ、行つてくる」

そう言つと圭一は靴ヒモを結ぶ。

家を出てしばらくは田んぼで、特に何も無い。

「圭一くん」

不意に後ろから女の子の声がし振り向く。

そこには茶色がかった髪に青色の瞳、服は青いセーラー服を着ている。

彼女の名前は竜宮レナ（本名は竜宮礼奈なのだが）である。

「よお、レナ」

「おはよー。今日はいつになく暑いねえ？」

「ん？」

そう言うと圭一は空を見上げる。

空に雲はなく、太陽はギラギラと活動をしている。

この上ない快晴だ。

確かに暑い。

「まあ、そうだな」

「だよな？だよな？そんな圭一くんには・・・」

そう言うと、レナは鞆の中から大量の小さくて白い四角い物体を取り出す。

「超冷え冷えミニアイスだよ」

「確かに涼しそうだけど何でそんなに小さ・・・」

圭一の思考が凍る。

この状況、このパターン。

嫌な予感しかしない。

「ね、念のために聞くけどそれをどうするんだ？」

苦笑を浮かべる圭一。

その額に大量の（冷）汗が流れる。

「えーとね、これを圭一くんの口の中にねえ詰め込むんだよ？だよ？」

レナ目が無垢な少女のように輝く。

「ちよっ、ちよっと待て。これは登校中にやることぢゃッ！」

そんな願いもむなしく無理やり口にアイス（レナ曰く超冷え冷えミニアイス）が詰め込まれる。

「ぎゃああああああー！」

そこで圭一の視界が暗くなり、意識が消えていった。
今日も彼らと雛見沢に一日が始まる。

ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編 0 (後書き)

初めまして、サンコンと申します。

小説は全くの素人で、ほぼ眠っている状態で書いています。

そんな僕が「ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編」を書こうと思った理由は、

「そうだ、ひぐらし書こう！」的なノリのためです。はい。嘘です。すいません。

実際はそろそろ感動が欲しいと思ったからです。 完全なる俺得

ひぐらしについてはこの小説を書くにあたって、漫画の方を一通り読ませて頂きました。読み終わった後、なんともいえない感覚に陥りましたが・・・とにかくすばらしい作品ということは間違いないです。まだ読んでない人も読んで人ももう一度ひぐらしを読むことをおすすめしますw

最後に一言。この小説がより多くの読者に読んでいただけると幸いです。

一回言ってみたかった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4586o/>

ひぐらしのなく頃に 連 血絶やし編

2010年10月30日20時30分発行